

講評文

12月25日 1番目

小坂井高校

「ハルカはいつでも燃えている」

初めはただの生徒会内の日常の話だと思っていました。初めは日常の中で校歌を考え、くだらない会話で笑い合っているコミカルな内容でしたが、途中から家庭環境の悩みがどんどん出てきて、キャンドルの精に頼って、ハルカが怪しい力に振り回されてしまうという話に変わりました。

まず素晴らしいと思ったことは、動きがとてもデフォルメされていたのですが、全く違和感なく、登場人物の心情や個性、性格がすごく伝わりやすい劇になっていてとても面白かったです。そしてハルカの心情がどんどん変わっていったコミカルな日常の話から現実の闇の話に繋がるような演技力が印象的でした。大袈裟な動きの中でもリアルな演技を混ぜている技術は自分自身も参考にさせていただきたいと思いました。

音響ではドアの開閉やキャンドルに火をつける音などがありましたが、どれもキャストさんの動きとピッタリだったので音響さんの技術が素晴らしいと思いました。ひとつ改善すべきだと思ったことは殴り合いをしたあとの暗転でチャイムが1回なったと思うのですが、そこでチャイムを鳴らすのであれば2回にして無音の時間を無くすということをした方がいいのではという意見もありました。暗転の時間をなるべく減らし、集中力を切らさない工夫をされていたので、ここで観客の集中力が少し途切れてしまったかもしれません。

照明では暗転がほぼなく、場転でも暗転せず少し暗くしてあえて場転を見せるところで多様な工夫が見られ、とても面白かったです。学校のシーンではしっかり地明かりが明るくついていましたが、家のシーンでは周りをブルーで暗くすることで家と学校のハルカの居心地の良さの違いを表しているように感じました。最後に大黒幕を開けて、ホリで炎や爆発をイメージするような色を出していたところがハルカの心の爆発を上手く表現していてとても感情が伝わってくる演出でした。

私自身この劇を見てキャストさんの必死さがとても伝わってくる演技で、こちらまで同じ空間にいる人なのではないかと錯覚してしまうほどの緊迫感を感じられました。その反面コミカルな場面もたくさんあり、総じて見ていてとても楽しめる劇でした。今回のこの演劇を生で見ることができ、講評もさせていただけたことをとても嬉しく思います。お疲れ様でした。